

6. 整備の方向性

前項までの整理を踏まえ、本事業の整備方針及びコンセプトを以下に整理する。

<事業対象地の背景・経緯>

- 市役所新庁舎の建設に伴い、行政棟が取り壊されることから中心市街地のにぎわいを創出するための資源として有効活用が必要である。

<現状>

- 第一子育て支援センター、真岡市立図書館については、老朽化した施設のまま利用されている。

<上位計画の整理>

- 「真岡市二宮町新市基本計画」
人、自然、産業が調和する都市を目指し、新市の均衡ある発展を図るため、生涯学習の推進、子育て支援の充実、商業の振興。
- 「真岡市第11次市勢発展長期計画」
市勢発展の基本計画として、計画的な土地利用、生涯学習の推進、子育て支援の充実、商業の振興などを目的とした施策の展開。
- 「真岡市第11次市勢発展長期計画増補版」
子どもの遊び場に加え子育てサロン機能を持つ複合施設を整備し、子育て世代へのサービスの提供や交流を促進。新庁舎周辺におけるまちのステーション整備と連携を図りながら、複合施設の一部として、まちなか子育て支援施設の整備を推進。また、新庁舎周辺の交流拠点施設の整備を図り、まちのにぎわいの創出と魅力の向上を推進。PFIなど民間資金やノウハウを活用した事業方式等の検討。
- 「真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」
子育て支援に関する具体的な事業内容と5か年の事業計画。
- 「真岡市都市計画マスタープラン」
全体構想における「中心拠点」に位置し、地域特性に応じた機能の集積により本市の顔としての活性化。商業機能及び行政機能、文化交流機能の充実とともに、空き家・空き店舗を活用したにぎわいの創出やまちなか居住の促進などによる中心市街地の活性化。
- 「真岡市公共施設等総合管理計画」
40年間で建築物系公共施設の総床面積を25.5%縮減する方針。
- 「真岡市公共施設再配置計画」
図書館、第一子育て支援センター、事業対象地内の既存庁舎等の再配置計画。

<市民アンケート>

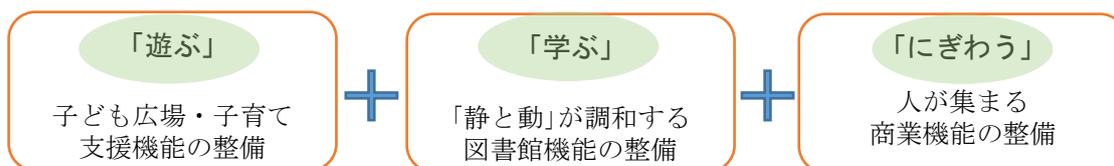
- 複合施設の図書館の利用意向として、現状よりも多様な使い方が要望されている。
- 子育て世帯の約60%が、複合施設の子ども広場・子育て支援機能を利用すると回答。また、約40%の回答者が週に1回程度の利用頻度があると回答。

<サウンディング調査>

- 複合施設とすることで、それぞれの機能融合を図ることができ、より一層、利用者へのサービス向上が図られる。

◆新庁舎周辺整備事業の整備方針

新庁舎周辺がまちの「顔」となるよう、多様な機能が集積した、多くの市民が交流する拠点として複合施設を整備することで「にぎわい」と「魅力」を創出する。



「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」

中心市街地に多くの人々が「集まり」「交流する」拠点づくり